

創られた庭園の中、塔と廻りの借景が計算されていて、自然に助けられながら別々の建物同士が関係している。

建物の内部と外部は密接に関係し、個々の建物自体の歴史性は関連していないが、個で公園を構成しているのが美しいと感じた。

また、聴秋閣の裏山の登る順序を逆にするとまったく魅力がない道になってしまうなど、作法が随所に感じられた。建物に合わせて外部がある。

建物一つ一つでも細かいディテールが施されていて、その時代の作法、もてなしの空間に感動した。スケールの大きなものから小さなものまで見せたかったのだという思いが伝わってきた。

建物の縁側は中間領域をうまく捉えられている。こういう部分は時代を超えてこれからも新しく持っていけるものとも思う。

何年たってもたわまない建具などを見て、この時代にもたわまずに残っているという当時の技術の高さに感動した。

